



大野市教育委員会たより

令和元年9月5日発行 第17号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：8月27日（火）午後7時～8時40分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：上庄保育園 ・2部 意見交換
対象者：上庄保育園保護者（16人）・保育士（9人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎小学校と中学校では再編の意味が違うと思っている。小学校は地域とのつながりを覚えていく時期で、中学校は自分を高めていきたいという時期だと思う。小学校は歩いていける範囲にあった方がいいと思っている。
⇒ ■小学校と中学校の使命は違うと思っており、区別していく必要はあると感じている。
- ◎現再編計画では、地域との関わりが薄くなり、寂しくなると思う。地域と子どもの間を埋める代替案、公民館を使うなど、地域との関係を保っていけるような方法があればと思っている。同じ状況になっている地域の成功例があればいい。
⇒ ■竹田小は、子どもの人数が減り、再編をすることで地域コミュニティを盛り上げていった地区と思っている。小学校では複式学級などが課題であり、中学校は専門教科教員の不足や部活動の種類の不足が課題と考えている。
- ◎再編後の学校の跡地利用は、どのように考えているか。
⇒ ■学校は防災の避難施設に指定されている所がほとんどであるが、その主は体育館になると思う。地区で公民館以外に、社会的な活動をするために教室などを使いたいということであれば検討していく必要がある。現在は、学校の跡地についての具体的な活用方法はまだ決まっていない。
⇒ ◎福祉施設など、他の団体に学校を譲っていく考えはあるか。
⇒ ■そういう場合もあると思う。企業や団体が学校を使いたいという要望があれば検討していくことになる。
⇒ ◎防災に活用するだけでは、その施設には、常に誰かがいる状態ではないと思う。誰かに使ってもらおう方が良いと思う。
- ◎近所にスーパーもないし、バスも通らない。学校もなくなったら人がどんどん減っていくのではないか。小学校で運動会があると路上駐車であらゆる車がいっぱいになる。再編したら、その学校は、学校行事などで保護者の駐車場はさらになくなると思う。
- ◎現在でも遠い地区の子どもたちはバスを使っている。再編でさらに学校が遠くなると、通学の際に、小さい子どもは通学で時間的、体力的なことを考えると非常に無理が掛かるのではないか。
⇒ ■スクールバスの通学時間は、30分以内で考えていかなければならないと思っている。30分程度で通える学校の配置が理想かと考えている。
⇒ ◎昔の上庄地区では分校という形で学校があった。出来るなら、分校の形で上庄小を残せないかと思っている。

◎スクールバス通学になると子どもの体力が落ちると思う。行き帰りの道草の学習など上庄だから出来る子育てがあると思う。小学校の間は少人数で学習しても良い。中学校では、大きな所でもまれて社会に出る準備をしなければならない。上庄には独自のコミュニティがあり、安心感がある。地域みんなが見てくれる中で、のびのび育って欲しいと思っている。

◎2,600人の池田町でも学校があり、地域が成り立っている。上庄地区は4,000人いるので小学校は残って欲しい。

◎中学校だけの再編で良いと思う。小学校は各地区にあった方が良い。中学校は部活のことを考えると人数は多い方が良く、2校ぐらいが良いと思っている。上庄中には専門の音楽の先生がいらないらしく、週1日だけ学校に来て、各学年を教えていると聞いている。

⇒ ■学力は決して5教科だけではない。音楽や美術も専門の教員に指導してもらった方が力がつくと思っている。

■1学年の学級数が減ることは、教員にとってあまり良くない。複数学級あった方が同じ学年で教員がお互い指導内容や方法を確認でき、教員の質が上がり、教育の質も上がる。

⇒ ◎1学年1クラスでも問題はないと思っている。

⇒ ■現在の池田小や池田中には、どの学年も20から30人はいると思うが、これから10年、20年先、現在の児童生徒数を維持していけるかを考えていかなければいけない。市の1年間の出生数は200人を切っている。

⇒ ◎池田地区の子どもの数は減っていない。市街地の子どもの数が減っていると思う。

◎池田は、保育園、小学校、中学校と一緒に良い所も悪い所もある。部活が寂しいということで中学校の再編は良いかなと思う。小学校は子どもが減って寂しいと思うが、市が別の面で頑張ってもらい、若い人が戻ってこれる大野になって欲しい。自分の子どもに対して、仕事がない大野に「帰っておいで」と胸を張って言えない。

⇒ ■企業誘致も頑張っている。働く場所と言えば、奥越地区は有効求人倍率は2倍である。問題なのは、自分の行きたい職場がないというミスマッチがあり、なかなか解決出来ない状況である。企業も大野に進出する場合、働き手の確保が出来るかを不安に思っている。



◎再編で教員の数はどうなるのか。子どもの人数が多くなると野放しになるので、教員の配置の充実を図るべきである。学校では勉強だけではなく、いろいろな芸術を学んだり、教員といろいろな話をしたりすることで、学校は楽しいと感じる。そのような隙間を埋める教員の配置を考えてほしい。

⇒ ■1学級に1人が基準である。学級数が増えると県の基準で教務主任(副担任)が配置される。複式学級では、教務主任が担任をするし、プラスアルファの教員も配置されない。

◎教育長や事務局長が市内のすべてのスクールバスに乗ってもらったと聞いて、とても感動している。保護者の小さい不安は尽きない。市で現場を確認してもらい、再編を進めて欲しい。もう少し時間をかけて、いろいろなことをみんなが納得できるところまで話を聞いて集計して欲しい。

⇒ ■この意見交換会は、教育委員会が直接目を見て、耳で聴いて、心で感じて、しっかり考えるためにお願いしている。学校再編は慎重に丁寧に、一步一步進めていきたいと考えているが、ある時期には、再編計画の見直し案を示していかなければいけないと思っている。その時には、見直し案に対して、いろいろな意見を聞いていきたい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

